

# 文化財担当者研修のすすめ

## ～よりよい文化財行政のために～



写真：在りし日の旧研修棟と  
現在の研究所仮庁舎多目的利用室  
(平成 30 年春開庁をめぐって新庁舎を建設中)

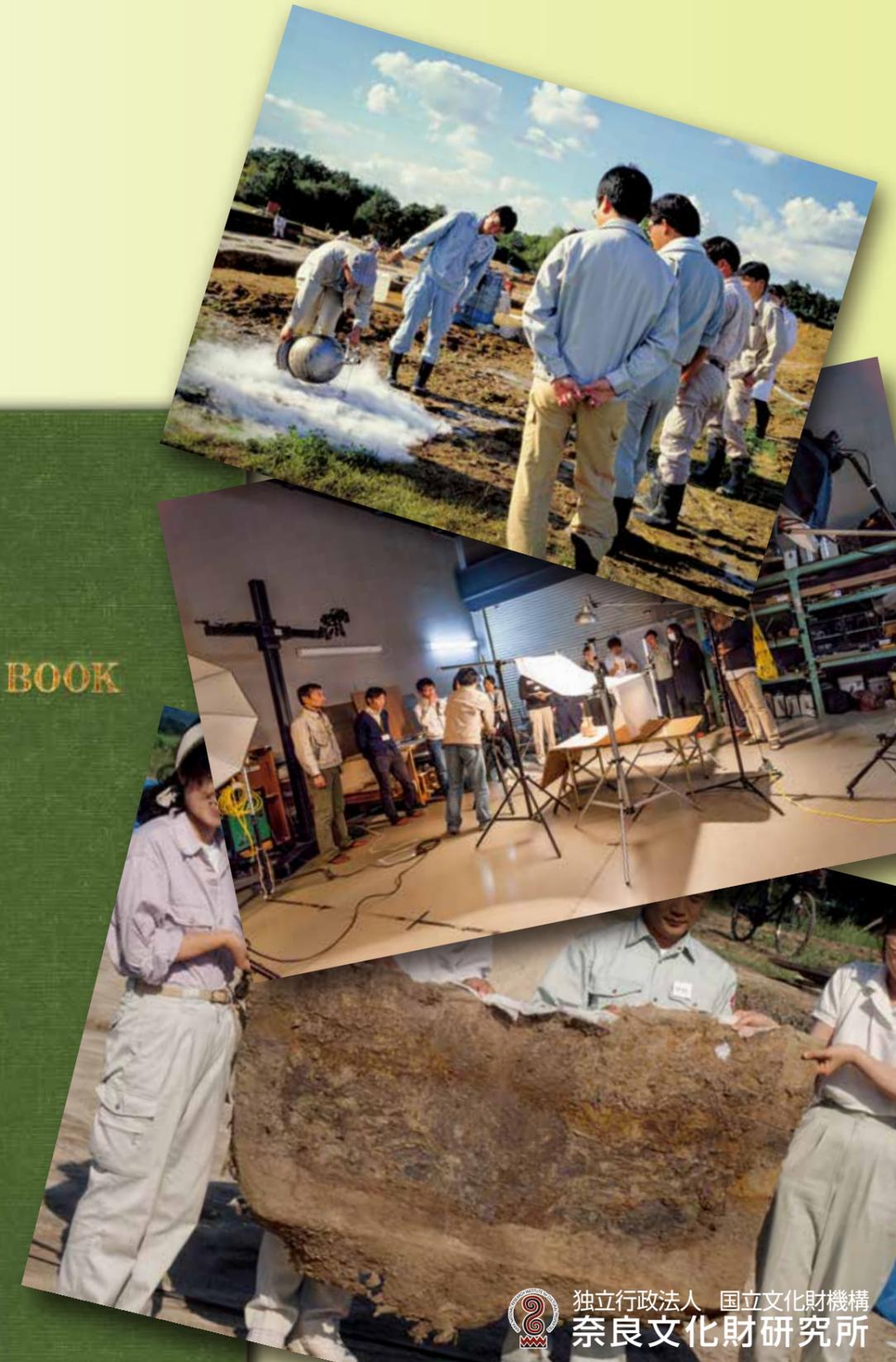


平成30年度 文化財担当者研修課程一覧(予定)

区分	専 門 研 修														
課程	建築調査	遺跡調査	考古学調査	歴史学調査	近現代建築	本質文化財	地質学	景観学	環境学	情報学	地誌学	地誌学	地誌学	地誌学	地誌学
副題	建築調査出土古文书・歴史学	遺跡調査	考古学調査	歴史学調査	近現代建築	本質文化財	地質学	景観学	環境学	情報学	地誌学	地誌学	地誌学	地誌学	地誌学
実施期日	6月11日～6月15日	6月18日～6月22日	7月9日～7月13日	7月23日～7月27日	9月3日～9月7日	9月10日～9月14日	9月18日～9月22日	10月3日～10月7日	10月10日～10月14日	10月17日～10月21日	12月6日～12月10日	12月13日～12月17日	12月20日～12月24日	1月25日～1月29日	2月22日～2月26日
定員	6～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	6～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名	8～15名
対象	地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
内容	発掘調査で出土する建築遺構等の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(6月11日午後から隔隔予定)	古文書・歴史学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(6月18日午後から隔隔予定)	近現代建築の価値の理解、その保存方法および活用方法について(7月9日午後から隔隔予定)	本質文化財を調査する際の注意、その保存方法および活用方法について(7月23日午後から隔隔予定)	地質学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(9月3日午後から隔隔予定)	景観学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(9月10日午後から隔隔予定)	環境学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(9月18日午後から隔隔予定)	情報学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(10月3日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(10月10日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(10月17日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(12月6日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(12月13日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(12月20日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(1月25日午後から隔隔予定)	地誌学調査の調査・記録・写真・図面作成等の専門的知識や発掘方法などについて(2月22日午後から隔隔予定)
申込締切日	平成30年 4月27日(金)	平成30年 5月2日(水)	平成30年 5月25日(金)	平成30年 6月8日(金)	平成30年 7月20日(金)	平成30年 7月27日(金)	平成30年 8月31日(金)	平成30年 8月17日(金)	平成30年 8月21日(金)	平成30年 10月12日(金)	平成30年 10月23日(火)	平成30年 10月30日(火)	平成30年 11月30日(金)	平成31年 1月1日(金)	平成31年 1月11日(金)

研修案内 URL <http://www.nabunken.go.jp/fukyu/kensyu.html>

### SKETCH BOOK





建設が進む奈文研新庁舎(平成30年4月竣工予定)

特別史跡平城宮跡のかたわらに所在する奈良文化財研究所(通称:奈文研)は、国立博物館、東京文化財研究所とともに独立行政法人国立文化財機構を構成する、日本を代表する文化財関連の調査研究機関です。

昭和27年に設立された奈良国立文化財研究所を前身とし、「文化財行政に資する研究をおこなう」をモットーに、奈良県下の恵まれた歴史的環境に包まれながら、考古学、保存科学や年輪年代学などの考古科学、建造物、文化的景観、計測修景など、不動産文化財を中心とする文化財を対象とした最先端の調査と研究をおこなっています。

## 文化財担当者研修



昭和41年から文化財保護委員会(現・文化庁)と共催していた発掘調査研修がはじまりです。昭和49年からは奈文研に設置された埋蔵文化財センターが引き継いで開催してきました。現在は、奈文研の研究分野の広がり、行政が対応すべき文化財の多様化にともなって、埋蔵文化財ばかりでなく、古文書、災害痕跡、文化的景観などの研修もおこなう「文化財担当者研修」として実施しています。昭和49年から平成28年までの累計受講者数は9312人。昨年度の受講者は167人で、100%の方々から、「有意義だった」、「役に立った」との御回答を受けています。

この研修は、文化庁とも連携しながら、全国の地方公共団体の文化財担当職員を受け入れ、最先端の研究にもとづく講義と実習を通じて受講者のスキルアップを図り、各地の文化財行政の足腰を強め、その一層の向上と充実につなげることを企図しています。また、開講課程や内容は随時変更し、その時々各地の地方公共団体が抱える課題に対応させています。講師は、奈文研の研究職員のほか、各分野での第一人者、時には文化庁文化財調査官が務めます。

研修後のアフターケアも万全で、課題や疑問に対しては、研修担当者・担当室が親身に対応いたします。また、同じ研修を受講したことをきっかけに、奈文研や同様の課題を抱える全国の担当職員との間にネットワークが生まれ、これを通じて、問題意識が共有され、課題の解消のヒントやアドバイス、ノウハウを得られることもしばしば。これも研修受講のメリットの1つです。



**近現代建築保存活用課程** 近年、近現代建築の保存がすすみ、さらに多くの要望があるなか、近現代建築は大規模かつ現役の施設として使用し続ける必要があります。その保存活用には従来の文化財とは異なる難しさがあります。本研修では、明治期以降の伝統的な和風建築を除く建築物と土木構築物を対象として、まず、その価値を理解するための初歩的な講義をおこないます。その後、保存活用にかかる諸制度、保存・修復の考え方および手法、耐震対策、保存と活用の考え方について座学・臨地講義をおこないます。さらに、受講者がかかえる事例をもとに、討議をおこない、近現代建築の保存活用にあたる行政担当者として必要な知識の習得を目指します。



近現代建築保存活用課程  
東京文化財研究所黒田記念館本館(登録有形文化財)

**木質文化財の科学的調査基礎課程** 木は私たちにとっても身近な素材であるため、木器、建造物部材、木彫像など様々な形で文化財として残っています。しかし、当たり前のように身近にあるためか、その科学的な基礎知識の浸透が不十分で、木質文化財を担当する際にどのように取り扱ってよいのかよくわからない、という声をよく耳にします。一方で、木の科学的分析の水準は、日々進歩しているという現状があります。そこで、「木質文化財の科学的調査基礎課程」では、木質文化財を調査する際に必要となる木材科学、年代学、保存科学などの科学的な基礎知識を習得し、担当現場に生かすことを目指す研修を企画しました。多くの方の受講をお待ちしています。



木質文化財の科学的調査基礎課程  
木質遺物の調査風景

## 受講生の声



平成28年度地質考古調査課程のみなさん

基礎から応用まで一通り学ぶことができ、大変有意義であった。

講義のコンセプトと講義内容がリンクしていて今後ひとつずつつなげていきたいと考えています。

どの講義も非常に良い刺激を受けました。景観復原に必要な情報が分かりやすくとめられていて良いと思いました。簡単にはできませんが、実践につなげていきたいと思っています。

